News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年　12月 21日　No. 17

発行責任者：校長　櫻井郁男

音読のススメ

10月より、毎週の朝礼後に実施されていたLI校の音読発表会、先週ですべてのクラスが発表を終えました。当初はそわそわしていた子どもたちも会が進むにつれて、どこで待機すればよいのか、挨拶のタイミングはどうか、発表後にもらう拍手とおじぎの間合いは・・・等に慣れて、発表会らしい雰囲気が醸し出されてきました。

さて、担任からの授業報告を確認していると、しばしば「音読」という学習や宿題に触れています。音読は語学学習において、とても大切なことです。

故事ことわざ辞典には

百篇読書百遍義自（くり返し読めば意味がはっきりしてくるものだ Repeated reading makes the meaning clear.）との説明があります。時代劇には師と対面して四書五経・春秋等を音読する場面があります。私たちも小学生から高校生時代まで国語や古文、英語の学習で暗唱の課題を出され、当時は意味も曖昧なままに諳(そら)んじた経験があります。

音読が奨励されるわけは、教科書の1段落、いいえ1ページを黙読させても、児童・生徒が内容を理解しているかは確認できないのです。子どもの状態がわからなければ指導の方法も定まりません。学級全員に声に出させて読ませれば(音読させれば)漢字・熟語の読みはもちろん、文節での切り方、文章間の息継ぎなど、机巡視をしながら声を聞き分け、一人ひとりの状態が把握できるのです。

また、言葉は耳からともいわれます。文学の授業はともかく、国語の授業中に教師が全く発声しないこと・・・一時間作文をという授業は、よほど学習のねらいを定めている場合は別として・・・無いはずです。補習校という限られた時間で国語を指導していくにあたって、教師が (発音・アクセント・抑揚・・・そして感情表現)まで配慮し、すばらしい範読をすれば、子どもたちは自ずと言語の魅力を感じることでしょう。これは音楽(唄・演奏)にもいえることです。

読む動作には、音読　黙読　範読などがあります。各ご家庭におかれましては、食後のひととき、お子様にとってちょっと難しい文章でも、団らんのきっかけとなるような**「伴読」**をおススメします。



今年のビッグアップルは最終号となりました。どうぞ良い年をお迎えください。